

地域環境ジュニアパトロール
活動報告書

グループ名	大 安 寺 愛 鳥 隊
-------	-------------

テ ー マ	大安寺小学校周辺の野鳥の生息状況調べと 巣箱づくりと巣箱かけ
-------	-----------------------------------

メンバーの氏名	学 校 名	学 年
生 田 真 悟	大 安 寺 小 学 校	6 年
小野田 純	大 安 寺 小 学 校	6 年
合 田 秀 太 郎	大 安 寺 小 学 校	6 年
坂 下 徹 哉	大 安 寺 小 学 校	6 年
清 水 友 昭	大 安 寺 小 学 校	6 年
清 水 英 樹	大 安 寺 小 学 校	6 年
中 澤 健 太	大 安 寺 小 学 校	6 年
畑 保 充	大 安 寺 小 学 校	6 年
藤 田 祐 介	大 安 寺 小 学 校	6 年

指導者氏名	宮 崎 好 運	教職員
-------	---------	-----

1 テーマを選んだ理由

学校周辺は、東側から北側にかけて九頭竜川域と、同川と日野川の合流地域に位置し、西側から南側は自然林の生い茂る丹生山地に囲まれた自然豊かな地域にあり、鳥獣保護区（禁猟区）に指定されていることから分かるように本来なら各種の野鳥の生息には格好の場所になっているはずである。ところが、地区を縦断する国道416号線の交通量の急激な増大、河川敷の整備や住宅開発（団地化）に伴う田畑や草地の喪失で「むかしは、どりや留鳥も結構いたが、最近はそのすがたをあまり見かけなくなった」（学校所在地区の元本校職員）というように、小鳥たちには住みにくい環境になってしまったのが現状のようである。

しかし、数は減っても他の地域に比べればまだまだ比較的多くの野鳥が生息しているのは事実である。そこで、①巣箱づくりや巣箱かけの活動を通して②野鳥に関することに興味・関心を持たせる③当校周辺にはどんな小鳥が生息しているかを調べる④生き物を慈しむ心を育てるとともに環境保全の大切さを考える—などの課題について取り組みたい。（指導者の指導感）

2 活動の記録

（1）主な活動日程

期 日	活動名	主な内容
7月18日(火)	巣箱づくり	子どもの都合で所定の期日より早く、併設中学校の技術科教師の指導で巣箱づくり。電動ノコギリ等を使用したので安全指導に配慮する。作業時間 4.5時間 製作個数 8個。
8月11日(金)	巣箱づくり	2回目の製作で作業時間 3時間で8個製作する。学校施設員に指導を依頼する。
8月17日(木)	バード・ウォッチング	学校周辺の河川敷、山林で観察するが、連日の炎暑干天のためか鳥の動きが鈍く観察できた鳥の数は少ない。子どもたちにもやや失望の声あり。
8月23日(水)	巣箱かけ	学校敷地内の樹木に4個、学校近くの山林にある老人施設に2個 合計6個をかける。巣箱設置の際の注意事項に留意する。
9月4日(月)	巣箱かけ	残りを幼稚園、公園、山林等に設置する。
9月8日(金)	野鳥の絵	バード・ウォッチングで確認できた野鳥の種類が少なかったので県自然保護センターの資料により当地区に多くみられる野鳥の絵を図鑑等から調べてスケッチする。
9月16日(土)	反省会	活動の反省と今後の課題について話し合う。

（２）活動のあゆみ

◇7月18日（火）《1回目の巣箱づくり》

中学校の 斎藤先生から巣箱の作り方を書いた説明書をもらい、それに従って巣箱を作りました。はじめは簡単にできると軽く考えていましたが実際に作ってみると大変むずかしいところもあり、みんないろいろ苦労したようです。でも、むずかしいところは先生に手伝ってもらいながらどうにか全員つくることができました。うまくできた子、先生に助けてもらいどうにかできた子などいろいろでした。巣箱（巣箱の穴）の大きさは、県自然保護センターの教えにしたがい、主にシジュウカラ、スズメ、ヤマガラなどが巣箱入れるように直径3センチにしました。

「ぼくは、巣箱づくりは簡単で、すぐ終わると思っていました。でも、実際には4. 5時間かかり、とても苦労しました。木材の長さをはかるのはとてもむずかしくヤスリでけずったりしました。」（合田）

「はじめに先生が作った巣箱の見本をみました。そうしたら、鳥の入るところが、とても小さく、本当に入るのかなぁ、と思いました。製作にあたってはまず、箱の大きさに合わせて木にエンピツで線を引いてから、その線にそって木をノコギリで切りました。うまく切れたのでよかったです。でも、ボンドでくっつけるときにはうまくくっつかなかったのでクギを打ったらはみでてしまいました。けど、わりあいうまくできたのでよかったです。」（清水友）

◇8月11日（金）《2回目の巣箱づくり》

午後1時から施設員さんに教えてもらいながら2回目の巣箱づくりをしました。2回目ということもあり、今度はみんなそんなにとまどうこともなく、うまくいったようです。それでも時間は3時間もかかりました。

「2回目の巣箱づくりをしました。前回よりはうまく作りたいなぁ、と思いながら作りはじめました。だいたいやり方を覚えていたので楽だった。でも、少し雑になったところもあった。前よりはずっとはやくできてよかったです。」（畑）

「2回目は、1回目とちがってうまくできました。自信をもちながらうまく作れました。」（小野田）

「2回目は、簡単にできると思ったが、1回目と同じくぼくが最後だった。ぼくにとってむずかしいと思いました。」（生田）

《巣箱づくりの様子》



《環境パトロール大安寺愛鳥隊のメンバー》



◇8月17日（木） 《野鳥の観察》

今日は9時から午前中、学校のあたりの3カ所でどんな小鳥がいるのかを双眼鏡などを使いながら観察（バード・ウォッチング）をしました。実際に観察してみると、飛んでいる鳥が少ない（山林では鳥の鳴き声はいろいろ聞こえましたが、鳥の種類が分からないのが残念でした）のに驚きました。何でも先生などの話によれば、夏の今のころは、春や秋に比べて小鳥の活動が不活発な時期になるそうなので、そのことが飛んでいる小鳥が少ない理由になっているのかもしれません。

なお、観察できた野鳥は次のようなものでした。参考までに県の自然保護センターで調べた資料ものせておきました。

《学校の周辺で観察できた野鳥》

大安寺荘付近	大安禅寺付近	学校近くの河川敷
トビ	シジュウカラ	はと
カラス	カラス	カラス
シジュウカラ	トビ	トビ

《大安寺付近に生息する野鳥(夏)》 福井県自然保護センター調べ

NO	鳥名	密度	NO	鳥名	密度
1	ヒヨドリ	0.93	5	ハシボソガラス	0.20
	メジロ	0.93		アオジ	0.20
	ホオジロ	0.93		キビタキ	0.20
2	シジュウカラ	0.67	6	トビ	0.13
3	カラヒワ	0.60		キセキレイ	0.13
	ヤマガラ	0.40		アカハラ	0.13
4	キジバト	0.26		センダイムシクイ	0.13
	ウグイス	0.26		ハシブトガラス	0.13
5	イカル	0.20		(以下略)	

地区の野鳥

確認鳥(夏)23種に
る。
冬季の確認鳥が17種いる。
確認鳥の種類は31種になる。

(順位は観察数の多い野鳥から。数字は1ヘクタール当たりの数)

「大安寺荘周辺にはカラス、トビぐらいしかなくてつまらなかったが大安禅寺付近ではシジュウカラなどの鳥もみることができました。でも、数が少ないので、とてもびっくりしました。家の人に聞くと、むかしはもっと多くの鳥がいたらしいけど自動車が増えたり緑が減って、小鳥も減ってきたらしい。」（畑）

「今日帰るとき、大安禅寺付近でシジュウカラを見つけた。シジュウカラはぼくたちに驚いたのかすぐとびたった。でも、みかけるのがカラスやトビ（㊟学校付近に、これらの鳥が多いのは、農協加工センターで大豆加工製品をつくっていることと関係が深いそうです）ばかりでつまらなかった。家の人に聞いたら昔はトリがたくさんいたというのに、残念だ。」（小野田）

◇8月23日（水） 《巣箱かけ》

今日は、第1回目の巣箱かけをしました。今まで巣箱かけなんてしたことがなかったので、よい勉強になりました。巣箱はただ木に適当にハリガネでくくりつけるだけでだれでもかんたんにできるものと思っていましたが、実際にかけてみると大変むずかしくて苦労しました。ハリガネをペンチできる人、それを巣箱のあなにとりつける人、木に作りつける人、きゃたつや木にかけたハシゴをこけないようにささえる人、全体をみていて気づいたことを言ってあげる人など、みんなのチーム・ワークが大事なことがよく分かりました。

また、取り付けるときに守らなければならないキマリもいくつかあります。たとえば、①取り付ける時期は秋から冬の初めがよいこと（10月から12月ころ）②取り付ける高さは人の手がすぐに届かないところ（地上2㍎くらいの高さ）③巣箱の入り口を雨が入らないように少し下に向けること④巣箱はつるさないで木にくくりつけること⑤巣箱と巣箱の間は最低でも10㍎はあけること—などです。

上の注意からも分かるように、今の時期は巣箱かけの時期としてはあまりよくないので、先生からは「巣箱に鳥が入ってくれたらもうけものくらいの気長な気持ちでとりつけよう。」との話はなしがありました。

今日取り付けたのは、学校、学校のそばにある大安寺荘（老人ホーム）

の2カ所でしたが、あと公園や幼稚園、大安禅寺などにも取り付ける予定です。

「巣箱を全部で6つとりつけました。老人ホームに2つ、学校に4つです。早く野鳥が巣箱に入ってくれるといいな。」（藤田）

「巣箱をかけました。はり金でしっかりと木にくくりつけました。老人ホームには2つつけました。おじさんのはなしでは、今年の春は庭のさくらの木のつぼみを全部野鳥が食べてしまったので、ホームではさくらの花があまりさかなかったそうです。だから、こんどはその野鳥が一羽でも巣箱の中に入ってくれるといいな、と思います。」（坂下）

◇9月16日（土）《巣箱の観察と反省会》

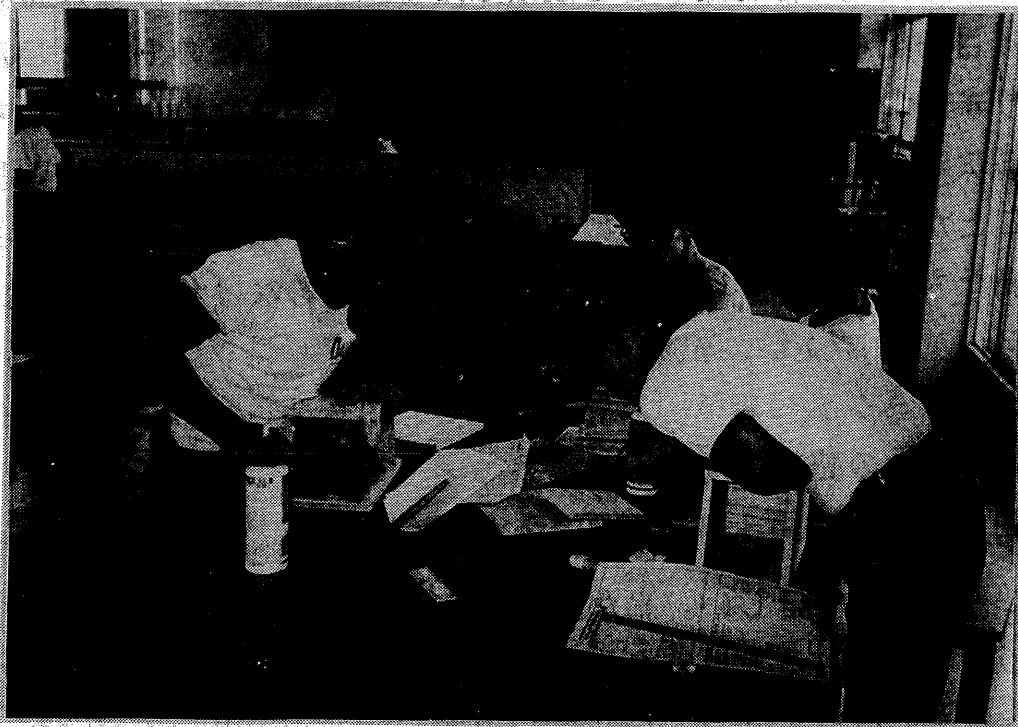
夏休みに取り付けた巣箱に鳥が住みついているかどうかを調べました。残念ですが、まだ野鳥が住みついた巣箱はありませんでした。これからは10月から11月にかけて鳥たちの動きが活発になるということなので期待したいと思います。

あと、教室で1時間程この地域環境パトロールの反省会をしました。日ごろは大空を見やって野鳥たちを観察したり、学校やぼくたちの回りの野山などに目を配ったりすることなどはほとんどなかったので、大変いい勉強になりました。とくに鳥たちの動きが車の増加や住たく（団地）・工場ができること、山の本々などが切りたおされることなどのことがらと関係が深いことがよく分かりました。これからは、ぼくたちが大人になったときには鳥たちが住みやすい大安寺になるよう努力しなければならないと思います。

3. メンバーの感想

鳥が多く住めるようにするためには、できる無計画に山をきりひらいたりすることをやめてほしい。鳥が住めないということは、人間も住みにくいことの証明でもあると思います。 6年 生田 真悟

いつも絶え間なしに自動車を通る環境が鳥にとって住みやすい環境といえるだろうか。おそらく、鳥たちは、もう力つきてツバサも止まりそうに



なってしまうと思います。最近では近くの野山を歩いても、鳥がさも満足そうにさえずる声も耳に入ってきません。パトロールで山へ鳥を探しにいったが、それほど見つかりませんでした。ではどうすれば鳥も人間も満足して生活できるのだろうか。自然の保護施設で育てるのもいいが、そのやり方ではあまり鳥の声を聞くこともできないし、鳥としてもそんな所にとじこめてしまうのもかわいそうです。それで、ぼくが思うのは、「鳥山」というような山をつかって、自然を豊富に残し、巣箱やえさ場を数多くもうけた山をつくるといいのではないだろうか。そして、ここではくるまの行き来を制限し、観光客などの出入りはバスだけとするような、小鳥たちがよろこぶこんな山があったら、毎日鳥が元気にさえずる声が聞こえてきそうな気がします。

6年 合田 秀太郎

鳥たちがいま、減ってきています。その原因はの第一は、人間が住みにくい環境になっているということです。くるまの排気ガス、工場からのけむり、木を切り倒しての住宅や工場の用地づくりなどが主な原因だと思われます。だから、これからは自然はかいをしない、人間一人一人が気をつけることが大切です。そうすれば、鳥たちもまたもどってくるのではないだろうか。

6年 坂下 徹哉

近ごろ鳥の数が減り、鳥はどこにいったのかなとよく思います。その原因を調べると、やはりむかしにくらべて山が切りくずされて住宅ができ、団地が団地ができ、くるまが増えてどんどん緑が減っているようです。このことからボクは、これからは自然（鳥）をもっと保護していった方がいいと思います。人間にも鳥にも住みやすい社会。このことがこれからのボクたちの目標だと思います。ボクたちもどんな小さなことでも気をつけて鳥たちを増やしたいと思います。

6年 畑 保充

最近では、山も減り鳥も少なくなってきました。家の人の話ではむかしはもっと多くの鳥がいたということです。大安寺は自然は多いけど、交通量が多いので鳥にも住みにくいところになったからだと思います。しかし、バードウォッチングをしてみると、けっこう鳥もいる感じがします。巣箱などをとりつけることによって、少しでも鳥が増えてくれることを祈っ

ています。

6年 清水 友昭

今まで巣箱づくりや巣箱かけなどしたことなかったので大変よい経験になりました。ぼくたちのかけた巣箱に1羽でもいいから鳥たちが住みついてくれるといいなと思います。

6年 清水 英樹

このごろの大安寺では鳥を見かける機会が少なくなっています。自動車の排気ガスやゴミなどの増加によるものであろう。鳥が増えるには、ゴミや排気ガスをへらすことです。ぼくたちの環境パトロールではその手はじとしてぼくらの力でできる巣箱づくりと巣箱かけをやってみました。はやく大安寺でよくみかけるシジュウカラなどの小鳥が住みついてくれるといいな、と思います。

6年 小野田 純

ぼくらの環境パトロールではバードウォッチングをして鳥が減少していることに気がつきました。ボクらが観察したかぎりでは4～5種類しかないことが分かりました。これはやはり、木を切ったり自動車の排気ガスで鳥がすみかを奪われたからだと思います。鳥を増やすにはどうすればいいのでしょうか。鳥もわたしたちも同じ動物なので鳥がいなくなったら、わたしたちも住みにくくなります。だから、鳥が住みやすい場所をつくることがだいじであると思います。

6年 中澤 健太

鳥が住めるようにするには、まず植林し、ゴルフ場をむやみにつくったり、ムダなダムをつくることや山をどんどん切りひらいたりすることをやめてもらうことです。とくにゴルフ場をつくる時の殺虫ざいなどは害になるので、あまり害の出ないものをつくってまいてほしい。一本の山の木を切りたおしたら、一本の苗木を植えることくらいはきちんと実行してほしいと思います。

6年 藤田 祐介

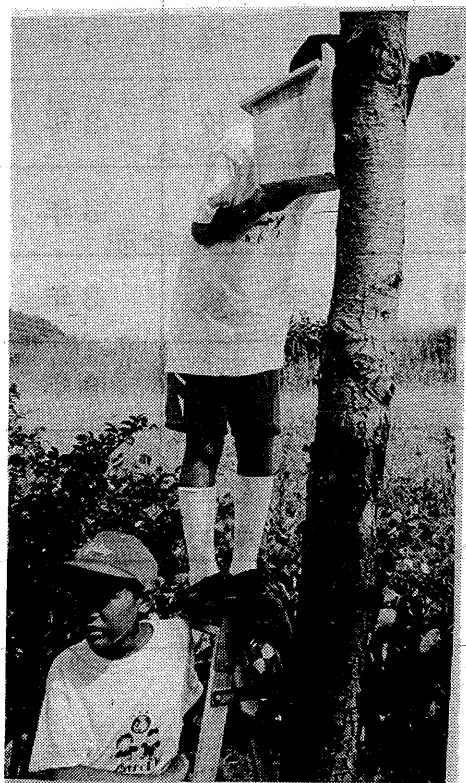
4. 指導者の感想

昨今の学校教育では、従来のような既製路線を単に踏襲したり一定の知識を教えるのではなく、やって学ぶ体験活動を取り入れたり、思考し創造する力を養成すること重視するなど、変化の激しい社会のなかで子どもた

ちが主体的に行動していけるよう多角的な視野から教育を再構築することの必要性が叫ばれている。環境問題（環境教育）などはこのような要請にぴったりの題材のひとつと考える。ただ注意すべきは、小学生を対象にした取り組みは理論ではなく、子どもたちの地域社会や生活のなかから具体的に考えさせることを忘れてはならないということである。そのため、市郊外に位置してまだ比較的自然の多い地域性から、自然の典型として子どもたちに身近な「鳥」を媒体に巣箱づくりと巣箱かけという自然への働きかけを通して自然と人間（生活）の関わりや自然環境の保全の大切さを考えさせようと前述のようなささやかな取り組みを行ってみた。限られた活動時間の中では十分ではないが、子どもたちの報告文からは子どもたちもバードウォッチングなどの自然観察や巣箱かけなどの自然への関わりを通して地区の自然の現状やその保護の大切さをそれなりに理解出来たように思われる。これからは、生活や開発（生産）と自然保護（保全）などの環境教育の基本に少しでも迫るため、課外活動として子どもたちに、近くの河川敷の開発と問題点など身近な環境問題について考えさせていきたいと考えている。

大安寺愛鳥隊

《巣箱かけの様子》



《バード・ウォッチング》

